

グループ紹介②⑥

大通むつみ会



団地内の融和を図ります

大通1、2丁目と大通南団地の人たちが中心となって、62年4月に結成した老人クラブです。事業は、ゲートボール、民謡踊り、班会が中心で、ほかにお祭りやさいの神の手伝いも行っています。芸能部は会員が12人で、練習は毎週水曜日に公民館で行っています。踊ったことがある人、初めての人などさまざまですが、ひざの悪い人も含め、練習を欠かしたことはありません。病気にみならず、健康づくりに役立っています。踊りを教えている中島愛子先生(大通南二丁目)も会員の一人で、先生は「踊りが好きな人たちの集まりですので、とても熱心ですし、覚えが早いのに驚いています。踊りという共通の趣味があるためか、皆さん数十年の友達のようにつきあっています」と話します。

団地内の融和——を第一に結成した会ですが、本年が団地の15周年ですので、今後「講演会や手芸なども取り入れていきたい」と、ますますがんばる皆さんです。

会員の声

小柳ツヨミさん  
(大通一丁目)



芸能部は昨年1月につくり、1周年を迎えました。1年間で3回舞台に立ちましたが、これからも踊りに磨きをかけたいと思います。けいこも楽しいですが、終わった後の雑談も楽しみの一つです。良い先生に巡り合い、和気あいあいとやっています。練習日が待ち遠しいですね。

このコーナーに登場するグループを募集しています。自薦、他薦を問いません。問い合わせは企画調整課広報広聴係(☎333)へどうぞ。



影写 御頭 貴國 帝



父の掛け軸  
忘れられない白根大火  
吉田新太郎さん(東町 建具職人・七十六歳)

この掛け軸は父親が持っているものを表具し直した物です。上が明治天皇、中が大正天皇、下の赤ん坊が昭和天皇ですから

八十年以上前のものですね。約四百戸が焼けた白根大火のときも、幸い火元から離れていたので、家財道具とい

つしよにこれを持ち出すことができました。そのとき私は十九歳で、月湯の建具屋に住み込みで修行していました。白根が火事だという知らせを受けて、私は四キロの道走って魚町の家に戻りました。当時は、自転車でも走れ、あまり持っている人はいなかったんです。師匠も手伝いに駆けつけてくれました。火事で焼け出された家には、天皇陛下から三円ぐらいたったでしょうが、見舞い金が出たことを覚えてます。そのころ大工の日当が一円三十銭でしたから、今の三万五千円ほどになると思います。やはり、あのように大きな火事は忘れることができますませぬ。

(談)

市民談話室

1月に入り、市内で起きた2件の火災をはじめ、白根地区消防署管内では、火災の発生が相次ぎました。そこで市民にとって、忘れてはならない教訓、白根大火の思い出を中心に語っていただきました。



白根大火の思い出  
悲しい極み、少女の死  
伊藤茂太さん(五六の町・無職・七十六歳)

昭和六年五月十三日午後七時五十分ごろ、白根町五六の町から出火した火は、折からの強い南東の風にあおられ、見る見るうちに四方に燃え広がって、一面猛火の海と化したのです。なにごと水利の便が極めて悪く、乾燥しきっていたため、猛火はたちまち五六の町をなめ尽くし、上手は四の町、下手は魚町方面に延焼しました。地元消防組をはじめ、近郷消防組、新潟常設消防ポンプ三台などが大挙して駆けつけ、消火に死力を尽くしました。しかし必死の努力も効果なく、四百戸余りを焼き尽くして、十四日朝

が、人命無視的な人災を誘発しているように思います。原子炉や航空機の機能点検ミスをはじめ、船舶の航路法違反、列車の信号無視や確認欠如など、ストレス過剰の産物と言えるところではないでしょうか。人類だけが自然に反する過剰生存をし、自然破壊を続けるかぎり、災害を防ぐことはできないのではないかと思います。短絡的な見方かもしれませんが、日ごろ気になっていたことを、一言述べさせていただきました。

市民文芸

川柳  
平成の純な瞳に期待する 大井 義雄  
童謡は母の温もり持つリズム 後藤マサノ  
小気味よい時事放談にしたり顔 佐藤トミノ  
ふしくれの手が物語る戦中派 佐藤ヨキ  
恋の種バラ撒きそうな娘が入社 高橋祐四雄  
長兄がここ一番で叩く胸 田中 成子  
彫師の手微妙に動く刀さばき 田村 恒夫  
路の無い陛下と古い殻を剥ぐ 中村 尚治  
わけもなく好きで見ていた西雲 西条 ムラ  
イミテーションでも鮮やかなネツ クレス 早川 英男  
やたら茶を呑んで欠伸の春炬燵 山岡 フミ

俳句  
愛らしく水面にゆらぐ猫柳 織田 セツ  
古厝捨てるも惜しい昭和号 波辺 勤  
宿直にふと目醒めたりし床の中 小出熊四郎  
思いは老いし妻を安じつ

短歌  
市場にて花売り娘笑い顔 長谷川久二  
おまけするよとお客を招く  
冬晴れの朝の野道をそぞろ行き 中村 京  
轍にかかる薄氷を踏む



合公園のちびつこ広場をいつもご利用しています。いつもおせいの子どもたちが、薄暗くなるまで遊んでおり、良い広場ができた、喜んでいきます。そこでお願いですが、広場に時計と街灯をつけていただきたいと思っています。ぜひお願いします。(桜町・Tさん)

街 灯の設置については、総合公園の全体計画の中で考えています。カルチャーセンターの外構工事の一つとして、年次のな計画をつくっていますので、もうしばらく、お待ちください。広場内の時計については、今の時点では計画に入っていないかもしれませんが、ほかにも同じような要望がありますので、今後の計画の中で設置できるように、検討しています。(開発課都市施設係)